

【冠婚編】

第1章 2分の1成人式・立志式の成立と展望一

儀礼を保持する家族行事

石井 研士（國學院大學）

はじめに：戦後の儀礼文化の衰退と2分の1成人式

戦後の儀礼文化の変化を見たときに、いくつかの明確な傾向を見いだすことができる。ひとつは、伝統的な儀礼の消滅であり、いまひとつは儀礼の変容、とくに簡略化である。成人式、結婚式、葬儀はそうした傾向が顕著に示されている儀礼である。

平成12年に刊行された『人生儀礼事典』（小学館）は、高度経済成長期に日本人の儀礼は変化したことを前提として、人生儀礼の昔と今を対比して説明している。同書は「昔の人生儀礼がどのようなものであったのかを理解するとともに、現代日本人の人生儀礼にも十分に留意し、それによって、現代にいたるまでの人生儀礼の盛衰が鳥瞰できるような項目の選定を試みた」（1）という。

現代における人生のあり方は、多様性という言葉によって特徴づけられる。多様性は個人の選択が可能であることを意味し、同時に集団による拘束が弱くなったことを意味している。たとえば、結婚することを選択しない女性や男性が存在する。あるいは、親にならないことを選択する夫婦が存在する。散骨や個人墓は、たんなる物珍しさから確実な傾向へと移っている。儀礼を行う母体が、集団を基盤とするものから個人や、狭い個人の集団としての家族へと移行することによって、儀礼は、実施しないことも含めて多様性を示すことになったのである。

本論が扱うのは2分の1成人式と立志式である。『人生儀礼事典』に記された七五三以降で成人式前の儀礼は「十三参り」しか記されていない。他方で現代としては数多くの項目が挙げられている。

図表1 人生儀礼一覧（現代）（『人生儀礼事典』）

入学式 運動会・遠足、遊び・ゲーム、子供会
小学校卒業 卒業式、いじめ、盛り場デビュー、初潮、性への関心
卒業式（中学校） 週直、バイク、携帯電話
卒業式（高校） アルバイト、卒業旅行、運転免許
専門学校入学
短大入学
大学入学 コンパ、クラブ活動・ゼミ、
就職活動
就職（短大生など）

一覧を見てわかるように、七五三を過ぎた後の行事は学校行事である。家庭や地域社会の紐帯が脆弱化すると儀礼は各家庭や個人に任されて実施されなくなるが、保育園・幼稚

園をはじめ、学校行事にはかなりの程度伝統的な行事が取り入れられていることが分かっている(2)。本論で扱う2分の1成人式は小学校4年生(10歳)の行事、立志式は中学校2年(14歳)で行われる行事である。どちらも全国的に行われている行事である。

近年急速に知名度を上げた「ハロウィン」も保育園や幼稚園で広く行われてきた。「イースター」を実施しているところもある。教育機関での実施は、該当する生徒・学生は全員参加が基本である。現代における儀礼の存続や発生に関しては、家庭や地域だけでなく教育機関の存在を十分に考慮しておく必要があるだろう。

2分の1成人式に関する調査

研究者による2分の1成人式に関する調査研究はほとんど行われていない。学術論文のポータルサイトであるCiNiiでの検索でも、研究論文として該当するのはわずかに一件に過ぎない。西川学「2分の1成人式と自己肯定感」(3)は、2分の1成人式が学校という場で行われることによる生徒の自己肯定感との複雑な親子関係を背景にして行事を強行する際に生じる子どもの人権を論じたものである。筆者が知っている他の論文は一件で、藤上真弓「イベントだけで終わらせない「1/2成人式」の在り方についてー特別活動と総合的な学習の時間双方のねらいを達成するために」(4)は、山口県下の事例を用いて2分の1成人式を迎えるまでの過程や終了後の学びの在り方をテーマとしている。山口県の実施率は記されているが、全国での実施率をはじめ基本的な項目に関する調査は行われていない。

2分の1成人式に関する調査は、ベネッセと明光義塾によるものしか見当たらない。後述するように、2分の1成人式の実施率は非常に高く、新聞にもしばしば取り上げられている。それにも関わらず研究者の関心を惹起しなかったことになる。

ベネッセと明光義塾による調査は以下の通りである。対象や調査方法に関しては十分に留意する必要がある。公開されているレポートに十分な情報が見られないものもある。

○ベネッセ 2012

調査期間 2012.12.05～12.11

調査対象 ベネッセのサイトメンバーで「2分の1成人式」を行ったことがある、11歳以上の子どもを持つ保護者

回答者数 1,249人

○ベネッセ 2017

調査期間 2016.12.12～12.26

調査対象 中学生・高校生の子どもを持つ人

調査手法 「Yahoo!クラウドソーシング」におけるWebアンケート

回答者数 1,205人

○明光義塾

調査期間 2018.1.9～1.12

調査対象 小学生の子どもを持つ全国の保護者男女(小学1～4年生の子どもの保護者)

：300名／小学5～6年生の子どもの保護者：300名)

調査手法 インターネットリサーチ (Fastask) 調べ

回答者数 600人

調査はどれも「子どものいる親」を対象にしているが、微妙に異なっている。ベネッセ2012は2分の1成人式を体験したことのある親へのアンケートであるから、調査方法を別にして、調査結果はストレートである。他方でベネッセ2017は「中学生・高校生の子どもを持つ人」であるから、結果はその点を考慮する必要がある。明光義塾の調査は小学生を持つ親に限定されており、その点では当事者に近い。

以上の他にもう一点研究報告書のあることが分かっている。愛知県の「親と子の2分の1成人式研究会による『「親と子の2分の1成人式」研究会報告書』(2008年)は2分の1成人式の問題点を指摘して話題になった教育学者・内田良の著書『教育という病—子どもと先生を苦しめる「教育リスク」—』(光文社新書、2015年)に引用されている。しかしながらこの報告書は国会図書館に所蔵されていないだけでなく、愛知県図書館、名古屋市図書館にも存在しない。さらに愛知県義務教育課、名古屋市教育委員会の担当者も存在を知らなかった。内田は考察を進める際の重要な資料としているが、狭い範囲でとりまとめられた報告書と考えられる。

認知・実施の現状

上記のベネッセ、明光義塾が行った調査結果を基に認知率を初めとした現状を確認しておきたい。

<認知・実施率>

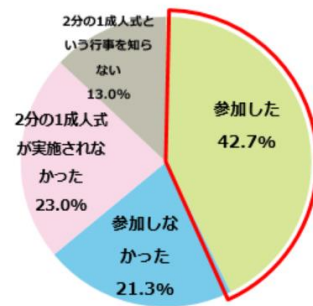
まず2分の1成人式がどの程度実施され、認知されているのかを確認する。

認知率がわかるのはベネッセ2017と明光義塾調査であるが、どちらも調査対象者を実施年代の中心にした保護者への調査であるために、全世代での認知率はわからない。ちなみにベネッセ2017(中学生・高校生の子どもを持つ人)では70パーセントが「知っている」と回答している。調査対象者の性格からして「一般」とはいえないまでも、2017年の時点で子どもを持つ親の7割が「知っている」という結果は「2分の1成人式は高い認知がある」といってもよさそうである。

明光義塾の質問は「あなたはお子さまの小学校の2分の1成人式に参加しましたか?」である。調査対象者600名のうち、小学校5～6年生の子どもを持つ保護者300名に絞った質問である。

図表 2 2分の1成人式の参加率（明光義塾、2018）

問 あなたはお子さまの小学校の2分の1成人式に参加しましたか？

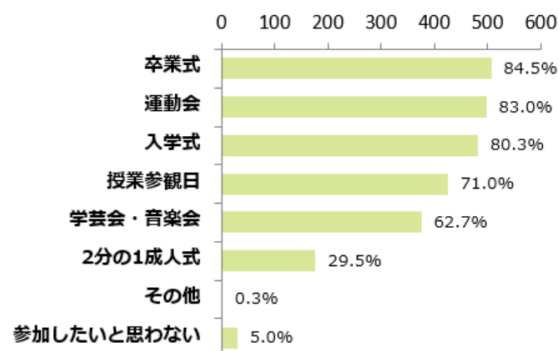


引用した図表は明光義塾のレポートからの引用である。図表 2 では「参加した」42.7パーセントが強調されているが、「2分の1成人式が実施されなかった」「2分の1成人式という行事を知らない」という二つの選択肢は実際に参加していないので、参加する可能性のある者の選択肢に限定すると、「参加した」は66.7パーセント、「参加しなかった」は33.3パーセントとなる。

図表 3 は同じく明光義塾の調査である。600人の回答者に「あなたが参加したいと思うお子さまの学校行事は何ですか？」という質問をしている。「卒業式」「運動会」「入学式」が8割を超え、「授業参観日」も7割を超える回答となっている。こうした行事に比べると「2分の1成人式」の参加希望は3割ほどと低くなる。「2分の1成人式」は指導要領によって決まっている学校行事ではなくあくまで任意である。また、後述するように、家庭を巻き込んだ行事として、現代の複雑な家庭事情の中で問題視される傾向も見え隠れするように思う。

図表 3 参加したい学校行事（明光義塾、2018）

問 あなたが参加したいと思うお子さまの学校行事は何ですか？



学習指導要領には載っていないものの積極的に「2分の1成人式」を推進する都道府県がある。「平成27年度山口県教育推進の手引き」には知・徳・体の調和の取れた教育の推進に関する施策の一つとしてキャリア教育の推進が挙げられており、その具体的な推進指標として「2分の1成人式」が掲げられている。平成27年度の基準値は63.2パーセントで、最新値（実施率）は91.4パーセントである（5）。つまり、山口県ではほとんどの小

学校で2分の1成人式が実施されていることになる。同様のことは浜松市でも実施されており2015年度には市内にある100校全てで行われた(6)。実施率は100パーセントということになる。東京都では2006年時点で、公立小学校約1,300校の半数以上で行われていた(7)。

現在の所、2分の1成人式の実施率に関する資料は上記だけである。ごく普通に世論調査で実施を尋ねれば、実施割合はそう高くはならないだろう。行事が行われてから年数が浅いこと、その時期に小学生を持つ親であること、もしくは実際に体験し成人した者などの条件がつくために高い実施の印象を受けるのである。ただ、マスコミでの報道が相次ぎ、知名度はある程度あると考えてもいいのではないだろうか。

いつ始まったのか

2分の1成人式でどのようなことが行われているかを見る前に、いつ頃から発生した行事であるかを確認しておきたい。

考案者は兵庫県西宮市の教員・佐藤修一で1980年頃だったという説がある。

生みの親は兵庫県西宮市の佐藤修一教諭(62)とされる。35年ほど前に4年生の担任をした際、高学年への門出に「背筋を伸ばして参加するようなイベントを」と考案したという。児童が今後への決意を話したり、歌を歌ったりする、こじんまりした学年行事だった。その後、同僚らが転勤先の学校で実施するなどして徐々に広まったらしい。(毎日新聞、2015年2月27日)

実際に広まっていったのは2005年以降のこのようだ。次の引用は朝日新聞(2017年5月18日)からの引用である。

02～04年度に小学4年の国語教科書の一部で取り上げられたり、今も「10年後の自分への手紙」などが記載されている教科書が多かったりするものの、国立教育政策研究所の渋谷一典調査官は「正直、なぜこんなに広がったのかよく分からない」と話す。

そもそもどういう経緯で始まったのだろうか。ある教育関係者によると、30年ほど前に一人の教員が「節目のお祝い」として開いたことが最初とされるという。そして、徐々に実施校が広まるにつれて「感謝」や「感動」の演出が強くなっていき、ここ10年ほどで教育関係の雑誌で取り上げられたり、インターネットで話題になったりしたことが導入拡大を後押ししたとみる。(朝日新聞2017年5月18日)

こうした経緯は、2分の1成人式に関する少なくない新聞記事の収集からもおおよそ首肯できるものである(8)。2分の1成人式の発案者であるが、毎日新聞が佐藤修一教諭とすることで、他に確認することはできなかった。佐藤教諭の発案が1980年頃だとしても、その後受容されたことに関しては、そうした発案が受け入れられるだけの素地が醸成されていたと考えるのが妥当であるだろう。

たとえば、2分の1成人式でしばしば行われる「タイムカプセル」であるが、かなり早い時期から実施されていたのではないかと(9)。学校ではないが、1972年に茨城県立歴史館

で彫刻家富樫一によりタイムカプセルモニュメントが行われている。小学校では1984年に八潮市立八條小学校で開校75周年記念式典でタイムカプセルを埋めている。インターネット上の検索には制約があり古い事例まではたどり着けなかったが、1980年代までにはかなり一般化していたのではないか。

新聞記事中に「02～04年度に小学4年の国語教科書の一部で取り上げられた」とあるが、この期間の国語教科書は確認できなかった。教科書で取り上げられたから広まると簡単にはいうが、教科書で取り上げられればそのまま浸透するわけがないのであり、2分の1成人式が教員に訴えた学校側の事情、子ども・家庭・大学が置かれた社会的状況などが考慮されなければならない。

2分の1成人式で何をしているのか

毎日新聞の記事が具体的な事例をうまく捉えているので以下に引用する。

今年の「成人の日」の約1カ月後、川崎市立梶ヶ谷小で2分の1成人式が開かれた。児童の後ろでは、その数をやや超えるほどの保護者が熱心に見守った。平日にもかかわらず父親の姿も数十人に上り、立ち見も出た。

プログラムは「10年間のありがとう」の暗唱でスタート。4年生約110人が「大人になるまで10年間よろしくお願ひします」と声をそろえた後は、地域に伝わる獅子舞や、縄跳び、合唱などで、成長した姿を披露。1人10秒の「将来の夢宣言」、保護者へ手紙のプレゼント、と盛りだくさんの1時間強だ。

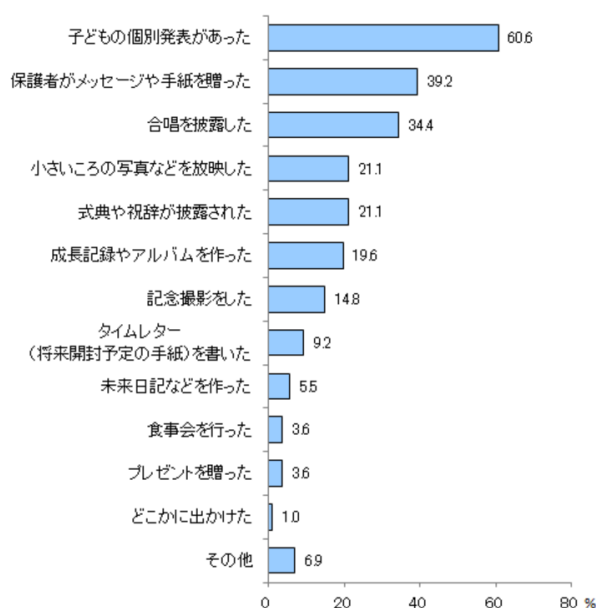
同校のイベントは総合学習の授業に組み込まれている。毎年、事前に命の教育の一環として助産師を招き、胎児がおなかの中でどう育ち、どのように生まれてくるかを学んで、自身の成長につなげる。この日は代表の児童が「おばあちゃんからお母さん、お母さんから私と、命のリレーになっていると気づいた」「僕の命に関わっている人に恩返ししたい」と作文を読んだ。

会社を休んで出席した父親(38)は「成長を見られて感動した」と満足げ。次男から手紙を受け取った母親は「読むと泣いちゃうので、帰宅してから開けます」と笑った。

「2分の1成人式」は学習指導要領に定められたものではなく、実施するかどうかも内容もまちまちだ。ベネッセが2012年に行った保護者アンケートによると、内容は、子どもの個別発表▽保護者から子どもへの手紙▽合唱・合奏▽小さい頃の写真紹介▽式典や祝辞▽成長記録やアルバムの作成などが多い。(毎日新聞、2015年2月27日)

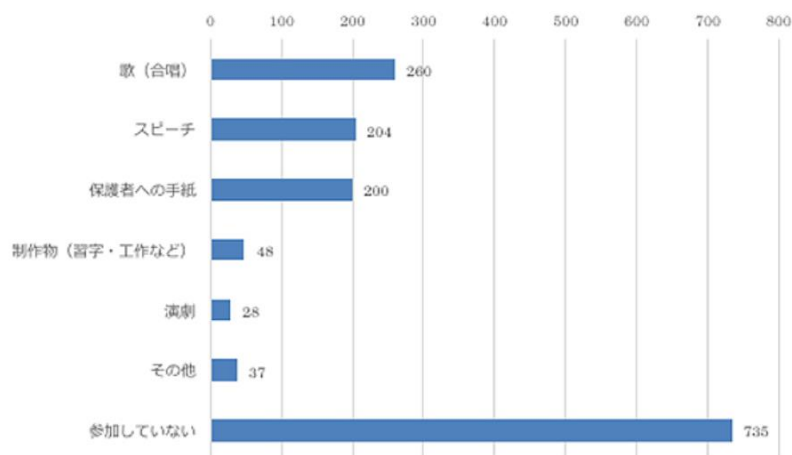
2分の1成人式の内容に関する調査はベネッセ2012とベネッセ2017が明らかにしている。引用文中にもあったベネッセ2012のアンケート内容は以下の通りである。

図表4 2分の1成人式で行われていること（ベネッセ 2012）
 「2分の1成人式」では、どのようなことをしましたか？（複数回答）



図表4はベネッセ2017の調査結果である。調査対象や調査方法が異なり、選択肢も異なっているが、結果は同じと考えていいだろう。

図表4 2分の1成人式で行われていること（ベネッセ 2017）
 「2分の1成人式」でお子さまが披露したものはありますか？（複数回答）



調査結果が回答実数で示されており、かつ「参加していない」が含まれているので、実際に行われている選択肢を母数（1,205名）に合わせてパーセント表示すると次のようになる。

| | |
|-----------|-------|
| 「歌（合唱）」 | 21.6% |
| 「スピーチ」 | 16.9% |
| 「保護者への手紙」 | 16.6% |

ベネッセが実施した年度の異なる調査であるが、ベネッセ 2017 の調査対象者（中学生・高校生の子どもを持つ人）の方が一般的である。さらに通常の世論調査であればさらに実施率は低くなることが想定される。

<合唱>

インターネット上の動画サイトで「2分の1成人式」を検索すると、合唱の動画が数多くヒットする。調査からもわかるように「合唱」は2分の1成人式の定番である。合唱で使用される歌であるが、楽譜が数冊出版されており、それぞれの楽譜に対応する CD が制作されている。

筆者が事例として購入したのは楽譜としては最初と思われる『コーラス&ピアノ・ピース 2分の1成人式~10才のありがとう~[オフィシャル版] (楽譜)』（ケイ・エム・ピー、2013年）である。収録曲および特別収録は以下の通りである。曲自体は youtube で聞くことができる。



【収録曲】

10才のありがとう 《二部合唱+ピアノ伴奏》

10才の君へ 《二部合唱+ピアノ伴奏》

BELIEVE 《二部合唱+ピアノ伴奏》

まあるいいのち 《二部合唱+ピアノ伴奏》

タンポポ 《独唱(斉唱)+ピアノ伴奏》

【特別収録】

10才のありがとう 《ピアノ・ヴァージョン》

★2分の1成人式台本（クラス用）

★群読「2分の1成人式 ~10才のありがとう~」

★10才の自分史（過去~現在~未来）

もう二冊、収録曲を列記したいと思う。収録されている歌はほとんど異なっている。「Believe（ビリーヴ／ビリーブ）」のように（10）、すでに知られていた歌もあるが、基本的に新たに作曲された歌であるようだ。

『小学生のための 心のハーモニー ベスト!4 2分の1成人式の歌・感謝の歌』（音楽之友社、2015年）

十歳の記念日 [斉唱/P 伴]

2分の1成人式 [2部合唱/P 伴]

どんなときも [斉唱・2部合唱/P 伴]

記念日 - 2分の1成人式 - [2部合唱/P 伴]

伝えたい言葉 [2部合唱/P 伴]

半分大人 [斉唱・2部合唱/P 伴]

マイドリーム [斉唱・2部合唱/P 伴]

赤いやねの家 [2部合唱/P伴]
いのちの歌 [2部合唱/P伴]
あなたにありがとう [2部合唱/P伴]

『コーラス・ピース 2分の1成人式 10才の自立~四年生のための合唱と群読~』 (ケイ・エム・ピー、2016年)

【合唱テーマ:感謝】10才のありがとう《二部合唱》

【合唱テーマ:故郷】ふるさと《二部合唱》

【合唱テーマ:命】いのちの歌《二部合唱》

【合唱テーマ:自立】ぼくのわたしの《二部合唱》

【合唱テーマ:思いやり】誰かのために-What can I do for someone?-《二部合唱》

【合唱テーマ:平和と歌】地球をつつむ歌声《斉唱》

【合唱テーマ:世界】世界がひとつになるまで《二部合唱》

【合唱テーマ:友だち】U&I《二部合唱》

【合唱テーマ:夢】ぼくらの夢~夢発表~(フルバージョン)《二部合唱》

【演出群読】10才のころ-金子みすゞの詩とともに-《二部合唱「こだまでしょうか」入り》

【演出群読】10才の決意と感謝《二部合唱「10才のありがとう」入り》

「クラスみんなで歌ってくれた『あとひとつ』や『ビリーブ』は、忘れられない思い出になった」

「親子で『世界に一つだけの花』を合唱したことが思い出になった」

一曲だけ歌詞を記しておく。基調は成長の自覚と感謝である。

10才のありがとう (作詞:小野山千鶴 作曲:磯村由紀子)

生まれて10年たちました
覚えてないこと 多いけど
大人になるまで あと半分
子どもの階段 かけ上がる

ピカピカだった ランドセル
よごれた分だけ 思い出できた
教室 校庭 体育館 みんなで過ごして 4年生

今 今 夢がある かがやく未来をつくりたい
今 今 夢を見て 10年後には何してる

生まれて10年たちました
大事に育ててくれたから
大人になるまで よろしくね

子どもの終わりが 来る日まで

ニコニコ笑顔だけじゃない

なやんだ分だけ 大きくなった

いつでも 家族と 友達が 近くにいるから大丈夫

今 今 伝えたい ふだんは言えないことだけど

今 今 伝えよう 10年分のありがとう

2分の1成人式に 10才の

ありがとう

ありがとう ありがとう.....

<スピーチ>

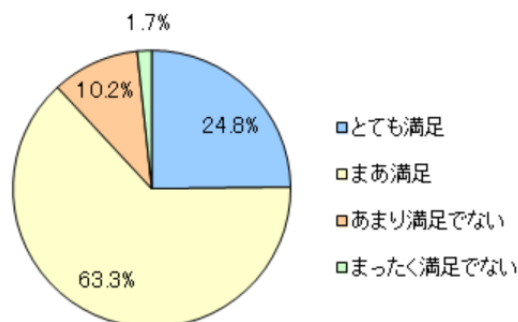
子どものスピーチの内容は、おおよそ「将来の夢」と両親への感謝である。多人数が語るために、一人の時間が短い。事前に子どもに対して考えてくるように教員からの指導があり、学芸会の発表のように次々とスピーチをしていくことが多いようだ。

感謝の言葉を聞いた親からは、涙がとまらないとか、感動したという評価が高く、2分の1成人式に対する評価に繋がっている。

<保護者への手紙>

順調に浸透していた2分の1成人式に冷水を浴びせかけるきっかけとなったのが「保護者への手紙」である。なぜ問題となったかを見る前に、2分の1成人式に対する親の評価を見ておこう。

図表5 2分の1成人式の満足度（ベネッセ2012）
「2分の1成人式」についての満足度はいかがでしたか？



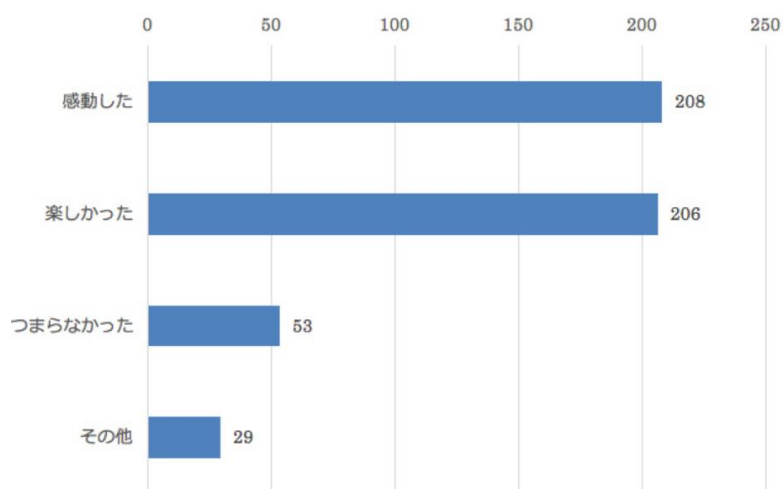
ベネッセ2012は実際に2分の1成人式を体験した親に対する質問の結果である。回答者の88.1パーセントが「満足」（「とても満足」と「まあ満足」の合計）と回答している。調査レポートではこの点が強調され、「満足」の内容をアンケートから拾っている。

○親子が互いに、普段はなかなか言えない感謝の気持ちを伝え合うことで、家族の絆が強まったと思うから

○10歳というと、自我がめばえ世の中のいろいろなことが目に入るようになるころ。親の言うことを素直には聞けなくなることも出てくると思います。そうした時期に、「2分の1成人式」で子どもに対する親の気持ちを伝え、親に対する子どもの気持ちを伝えたことは、子どもの成長にとって大きな意義を持つはず

図表6はベネッセ2017の調査結果で、2分の1成人式に参加したことのある親だけへの質問である。回答数表示なので割合に直すと、「感動した」(44.3%)、「楽しかった」(43.8%)、「つまらなかった」(11.3%)、「その他」(6.2%)となる。

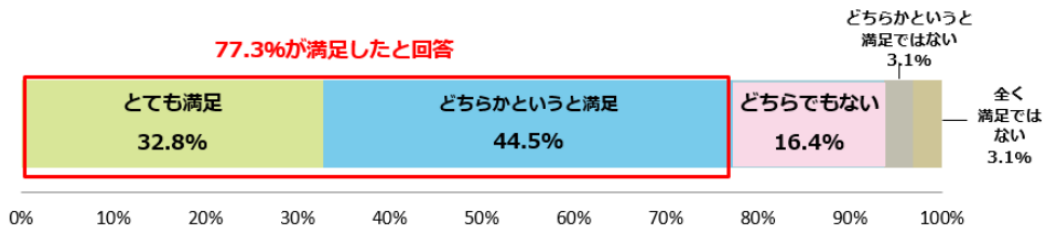
図表6 2分の1成人式の満足度(ベネッセ2017)
参加されていかがでしたか?(複数回答)



図表7は、明光義塾の2分の1成人式に参加したと回答した126人に尋ねた結果である。明光義塾のレポートは「約8割の保護者が参加して満足と回答」と記している。レポートでは、「一人ひとり親へのメッセージを読み上げてくれて感動した。他の子どもたちの手紙も聞いて楽しかった」「それぞれの親に対して、目の前で手紙を読んでくれて、感謝の気持ちを伝えられたときに涙が出た」といった感想が取り上げられている。

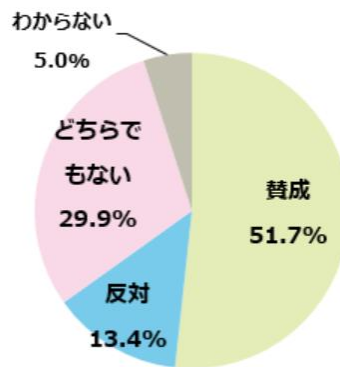
続いて「あなたは小学校でお子さまの2分の1成人式を実施することに対して、賛成ですか反対ですか?」という質問を設けて是非を尋ねている(図表8)。2018年当時、2分の1成人式が手放しに賞賛される行事とは認識されていなかったことを踏まえての質問と思われる(2分の1成人式を問題視した内田良の書籍は2015年に刊行されており、テレビ等でも取り上げられて問題となった。ちなみに、内田は2019年にほぼ同じ内容の書籍を刊行(『学校ハラスメント 暴力・セクハラ・部活動—なぜ教育は「行き過ぎる」か』朝日新書)しているが、そこでは二分の一成人式には言及されていない)。調査結果では「賛成」が51.7パーセントと半数は超えたものの、大半までは行かなかった。

図表7 2分の1成人式の満足度（明光義塾 2018）
2分の1成人式の満足度はいかがでしたか？



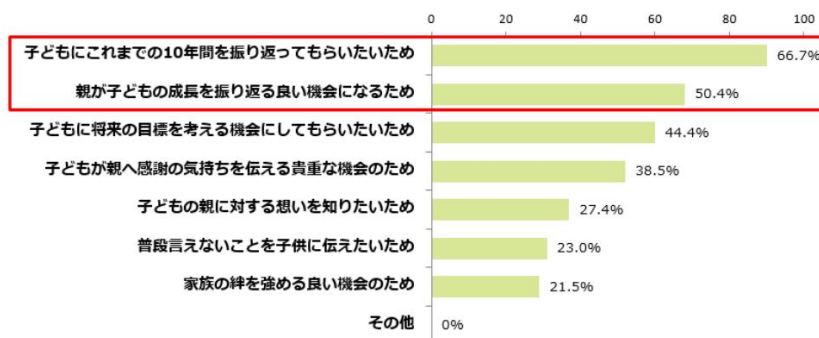
図表8 2分の1成人式に対する評価（明光義塾 2018）

あなたは小学校でお子さまの2分の1成人式を実施することに対して、賛成ですか反対ですか？



さらに賛成と回答した135人にその理由を、選択肢を示して回答させている（図表9）。「子どもにこれまでの10年間を振り返ってもらいたいため」（66.7%）、「親が子どもの成長を振り返る良い機会になるため」（50.4%）のふたつの選択肢が5割を超え、「子どもに将来の目標を考える機会にしてもらいたいため」（44.4%）、「子どもが親へ感謝の気持ちを伝える貴重な機会のため」（38.5%）と続く。

図表9 2分の1成人式に賛成する理由（明光義塾 2018）
あなたが2分の1成人式に賛成する理由は何ですか？



NHKは2019年1月17日、「カラフル」という番組の中で「一人で育ててくれてありがとう」という内容を放送した。「カラフル」は国際共同制作による15分間の「子どもが自分の言葉で語るドキュメンタリー」番組である。片親の男の子が2分の1成人式を迎える姿を家庭での様子を折り込みながら制作された。

(http://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?p=general&das_id=D0005170314_00000)

scene 01 「2分の1成人式」

ぼくの名前は朱羽（しゅう）。10歳。ぼくの学校では、4年生になると「2分の1成人式（せいじんしき）」っていうのをやる。家の人をよんで、歌ったり手紙を読んだりする。その日は、お父さんのための日にしたい。10年間、ずっとはたらいで、ひとりでここまで育ててくれてありがとうという気持ちをつたえたい。

scene 02 毎日朝ごはんを作ってくれるお父さん

いっしょに住んでいるのは、妹と、お兄ちゃんとお父さん。妹はいつもしゃべっている。お兄ちゃんはやさしい。自分の性格（せいかく）は…わかりません。お父さんが毎日朝ごはんを作ってくれる。お父さんのごはんは、まずいときもあるし、おいしいときもある。上手なのはたまごやき。ぼくが4歳（さい）ぐらいのときまでお母さんがいっしょにいたけど、そのころのことは、あまりおぼえてない。ずっと、お父さんがなんでもやってくれて、育ててくれてあたり前だと思っていた。

scene 03 お父さんはいつも仕事

お父さんが仕事から帰ってきた。おふろジャンケンで、おふろそうじ当番を決める。また負けた！ぼくは、ジャンケンに弱いから、けっきょくいつもやるはめになる。お父さんはこわい人です。ごはんを落としたり、犬の世話をしなかつたりしたとき、おこられたりするから。最近（さいきん）は、土曜も日曜もいそがしくて、休みがない。ぼくたちがねた後も、お父さんは仕事してる。

scene 04 やっぱり試合を見に来てほしい

休みの日は、ぼくはソフトボールに出かける。6時すぎに集合のときは、朝5時半にお父さんが起こしてくれる。お弁当（べんとう）はお父さんが作ってくれる。ソフトボールとか、遠足のときとかに、たまごやき作ってとたのむ。いちばんおいしいから。試合（しあい）に出るときは、ほんとはやっぱりお父さんに見に来てほしい。

scene 05 みんなそれぞれちがう生活なんだ

2分の1成人式（せいじんしき）まで、もうすぐ。学校でリハーサルをやった。順番に親にあてた手紙を読む。家庭のこととかを書いている人がいたので、聞いているうちに、一人ひとりちがう生活をしているんだなと思った。友だちの家とちがって、うちはお父さんが料理（りょうり）を作ってくれているんだ。2分の1成人式が近づいてからそう思うようになった。

scene 06 お父さんはスゴイ

仕事をたくさんしているのに、毎日ごはんを作ってくれる。お父さんはスゴイと思う。夕ごはんのとき、2分の1成人式（せいじんしき）の話をした。「10歳（さい）になったら何する？ どうなりたい？」って聞かれて、どうもなりたくないって言った。そしたら、「レギュラーとりたいとかないの」っていうから、「ある」って言ったら、「ぼそぼそ言

うから聞こえん」って言われた。「明日、はっきりしゃべれよ、朱羽。大きい声で」って。

scene 07 気持ちをつたえたい

2分の1成人式（せいじんしき）の日がきた。先生に「お父さんをなかせようことをがんばりたい」って言ったら、先生は言った。「ないたら OK とか、なかなかあったらダメ、じゃないよ。でも、なかせようっていうぐらいの気持ちをつたえようとすればぜったいつたわるから、そこを大事にしてほしい」って。時間が来た。みんな玄関（げんかん）で、お父さんたちを出むかえた。

scene 08 一人で育ててくれてありがとう

ついに、「2分の1成人式（せいじんしき）」が始まった。一人ひとり、親への手紙を読んでいく。ぼくの番になった。「お父さんへ。ぼくが生まれてから 10 年間、一人で育ててくれてありがとう。毎日ごはんを作ってくれて、早く起きられるようになりました。…いつも部費（ぶひ）をはらってくれたり、おこづかいをくれたりしてありがとう。土日は毎朝早く起きて、おにぎりやお弁当（べんとう）を作ってくれてありがとう。ぼくが二十歳（はたち）になっても元気でいてください」。お父さんに手紙をわたした。お父さん、ちょっとないてるみたいだった…。

scene 09 ちょっとお父さんに近づいた

お父さんに、たまごやきの作り方を教えてもらうことにした。たまごのわり方から教わる。といたたまごをフライパンに流しこんで、おはしでまいていく。引っくり返してできあがり。お父さんは、「はじめてにしてはいい感じじゃないか」ってほめてくれた。食べてみて、「おいしいよ。上出来。お父さんがやいたのとかわらんよ」って言ってくれた。毎日作るのはちょっとむりだけど、お父さんのすきなお酒のおつまみを、時々は作ってあげたいと思う。

NHK の放送がそうであり、ベネッセや明光義塾の調査のまとめがそうであるように、多少問題があるが、2分の1成人式は十分に有意義であるという結論を出しているように思う。現在も大半が評価する中で、何が2分の1成人式の問題として指摘されたのだろうか。

指摘される問題点

2分の1成人式について実施されてきた調査によると、ベネッセ 2017 では 11.3% が「つまらなかった」と回答し、明光義塾 2018 では、「満足していない」（「全く満足ではない」と「どちらかという満足ではない」の合計）が 6.2 パーセント、「どちらでもない」が 16.4 パーセントと 2 割以上が評価しない態度を取っている。

ベネッセ 2017 の調査結果（図表 5）には寄せられた保護者の声が三件紹介されている。

- 子どもたちのスピーチは言わされている感がありすぎ、先生が満足しているだけだった。
- なぜこのようなイベントが始まったのか疑問である。
- この行事自体に何か違和感がある。

2分の1成人式について、まっこうから問題視したのは教育社会学者の内田良である。

内田は1976年生まれで名古屋大学准教授、ウェブサイト「学校リスク研究所」を運営している。テレビ等でも積極的に教育、学校問題について発言している。

内田は2015年に『教育という病—子どもと先生を苦しめる「教育リスク」—』（光文社新書）を刊行した。学術ポータルサイトCiNiiで内田の論文を検索すると、公開されている限りでは「2分の1成人式」に関する論文は見当たらない。ヤフーニュースで短いリポートを二点掲載した後（11）、2015年に刊行した著書の中で「第2章「2分の1成人式」と家族幻想—家庭に踏み込む学校教育」を記している。内容も論文ではなく評論、オピニオンである。

内田が『教育という病—子どもと先生を苦しめる「教育リスク」—』で採り上げている問題は組み体操、運動部部活動における体罰と事故、部活動顧問の加重負担など教育リスクと呼ぶもので、2分の1成人式も同じコンテキストで扱われている。内田によれば、2分の1成人式は「教育が見えなくさせるリスクの一例」（12）である。

内田の文章を引用しながら、2分の1成人式の問題点を検証してみたいと思う。

式では、親への感謝が集団的に強制される。「お母さん、ありがとう」「お父さん、お仕事お疲れ様」とお決まりのセリフを子どもたちは書く。ここで問題なのは、「親は感謝されるほどに、子どもに尽くしているはず」という幻想のもとに、式が成り立っているということである。（13）

「2分の1成人式」の実施項目のなかで、保護者への感謝の手紙と合わせて、もう一つ慎重に考えなければならないのは、生い立ちを振りかえるという取り組みである。具体的には、自分の名前の由来を親から聞いたり、誕生時や幼少期の写真を家からもってきたり、それらを含めて自分史をつくったりする。

生い立ちを振り返ることの何が問題なのか。端的に言えば、家族が長年にわたって幸福に満ちていること、そして、その構成員もずっと変わらずに今日まできていることが暗黙の前提とされている点である。家族は幸せでずっと変わらないものという前提があるからこそ、過去をさかのぼって人前で語るができるのである。

過去を振り返るという実践は、子どもだけでなく保護者の側にも厳しい現実を突きつける。（中略）特殊な事情を経た保護者にとっては、過去を振り返ることが困難な場合もある。（14）

内田のサイトの記事の中に引用されている文章である。

小4の娘（夫の連れ子）のことについて。

娘の通う学校で4年生の親子行事として「1/2成人式」が行われます。先日その時に渡す手紙の用意を、と学校からプリントを持ち帰ってきました。

たった10行、「生まれた時の様子」が書いてあげられません。

夫は出産の知らせがもらえず、初めて娘と会ったのが生後1ヶ月半です。（できちゃった結婚で、妊娠7ヶ月で別居、生後2ヶ月で離婚です。）

娘の1番小さい時の写真は、離婚後夫に引き取られた生後2ヶ月半の時のものです。生ま

れてすぐの写真はありません。

写真もない、生まれてすぐの様子もわからない。（「「名前の由来」「昔の写真」必要か？
2分の1成人式」）

現代日本社会における家庭や家族の複雑な状況、これは戦後の社会変動が顕著に表れていることは周知の事実である。2分の1成人式は、そうした家族の内実を赤裸々に暴露することに繋がる。次の内田の文章はその点をよく物語っている。2分の1成人式で想定されているのは、「（離婚も再婚もなく）子どもは実父母が子どもをずっと大事に育ててきたはず」というあまりに単純な幻想である。子どもと保護者を、平和で一様な家族幻想の中に押し込めて、そこで子どもと保護者を教育しようというのが、2分の1成人式」の実践である。」（15）

知り合いの教育学者の話なので客観性にともしいが、「二分の一成人式は少し前まで流行っていた」という。批判する者が現れ、かつテレビ等で取り上げられたときに、教育現場はどう反応するのだろうか。学習指導要領にない行事であり批判を想定して止めるのか、それともキャリアコースの一環に位置付けて継続するのか、今後の経緯を注視することにしたい。

中学2年で実施されている立志式

2分の1成人式に関する情報を収集する過程で、「立志式」という学校行事が全国の中学校の大半で行われていることを知ることになった。インターネットで「立志式」を検索すると、実に多くの事例を確認することができる。『論語』の一節「吾十有五而志于学（吾十有五にして学に志す）」に依拠していると考えられるが、起源はよくわかっていない。14歳の中学2年時に、これまでの自分を振り返りこれからの目標や決意を表明する機会として定着したようだ。

具体的な事例を二例取り上げる。平成28年と30年の事例である。

立志式 9月28日 川口中学校の伝統となっている行事の一つ、2年生の立志式を挙行了しました。地域の御来賓、2年生の保護者からも参列いただき、また1年生も同席した上で、代表生徒の司会進行で、第一部と第二部に分けて予定どおり行うことができました。第一部は、2年生生徒全員による発表会。この立志式に向けて一生懸命に考えてきた将来の夢や希望、進路について、一人ずつステージの上で発表しました。発表にあたっては、原稿を見ないで発表するという、これもこの行事の一つの課題となって引き継がれてきたことに、全員がチャレンジしました。また第一部のみ川口小学校の6年生にも来てもらい、これらの発表を聞いてもらいました。川口中学校に入学すると、こんな行事があるということを実感してもらえたものと思います。…第二部の記念講演会では、中越高等学校教諭・陸上部顧問の 渡辺裕人様からお出でいただき、御講演をいただきました。御講演の中で、これから生徒が歩む人生において大切な言葉をたくさん生徒に示していただきました。先生の熱い思いが伝わり、触発され、また励まされた生徒が多かったようです。（「長岡市立川口中学校 学校たより 6号」（10月号）平成28年10月17日）

2月17日(土)に2年生の立志式を開催しました。当日は、大変寒いなか、多くの保護者・来賓・地域の皆様に参加していただきました。ありがとうございました。立志式では、まず、学級代表の4名が立志作文を発表しました。発表の題は「失敗から成功へ」「本に関わること」「華やかな舞台の陰で」「将来の夢」でどの作文も立派な内容で、発表も堂々としていてとても良かったと思います。その後、「十四歳の決意」として2年生全員が、「将来の夢」「今の自分」「これからの自分」などを発表しました。ステージの上で、自分のことについて発表することは、とても緊張すると思いますが、みんなしっかり自分のことばで発表することができました。また、聞く態度も大変素晴らしかったです。

十四歳、十五歳の中学生の年代で、最近大活躍している人がいます。全日本卓球選手権大会で優勝した張本智和選手や将棋の藤井聡太六段などです。中学生年代から表舞台上で活躍する人はとても素晴らしいと思います。人並み外れた努力をした結果です。しかし、多くの中学生は、もう少し先の近い将来に華が咲く人がほとんどだと思います。だから、中学生の時は、華が咲くためのしっかりとした根を張る時期です。人としての基盤をつくる時期です。たっぷりと栄養(勉強や愛情)を補給し、刺激(成功や挫折)を受け、土の中の見えないところで、大きくて太い根をどんどん伸ばしていきましょう。

2年生は、4月からは最上級生です。立志式での素晴らしい「十四歳の決意」の発表を胸に、早良中学校の顔として活躍してくれることを大いに期待しています。(「福岡市立早良中学校 校長・副島清隆」平成30年2月28日)

基本的な目的や実施内容は、年齢こそ違え、2分の1成人式と変わらない。2分の1成人式の問題点を指摘した内田良は立志式に関してはひとことも言及していない。

立志式に関する論考は、学術ポータルサイト CiNii で検索する限り存在しない。現代の人生儀礼を扱った論文にも、管見の及ぶ限りも、見いだすことができない。近年刊行された年中行事辞典や生活史辞典にも項目がない。全国的に実施されているにもかかわらず、きわめて不可思議である。

調査といえるのかどうか微妙だが、静岡県浜松市にある「志を持った子どもを育てる会」(<http://www4.tokai.or.jp/hanai/kokorozashi1.htm>)が2004年にアンケート調査を実施している。「志を持った子どもを育てる会」は、会の名称にあるように、「中学2年生頃を対象にした「立志式」を行うことにより、徳育の重要な一助にしようとする」と願うグループ(もしかして個人)である。

調査は2004年6月に47都道府県及び13政令指定都市の教育委員会宛に行われた。29の都道府県、8政令指定都市から回答があった。

図表10 立志式の実施都道府県・政令指定都市(2004年)

| | 都道府県 | | 政令指定都市 | | 合計 | |
|-----------------|------|------|--------|------|----|-------|
| 全県または全市で取り組んでいる | 5 | 14.3 | 0 | 0.0 | 5 | 14.3 |
| 実施校あり | 7 | 20.0 | 2 | 5.7 | 9 | 25.7 |
| 調査、把握なし | 14 | 40.0 | 7 | 20.0 | 21 | 60.0 |
| 合計 | 26 | 74.3 | 9 | 25.7 | 35 | 100.0 |

回答は対象とした都道府県・政令指定都市 60 のうち 35 (58.3%) だった。35 のうち立志式を実施しているのは 14 で 40 パーセントだった。実施率自体はかなり高いと思われる。報告書では 5 県について詳しい数字が引用されている。(%)は石井)

栃木県…178 校中、166 校で実施 (93.3%)

愛媛県…155 校中、145 校で実施 (93.6%)

宮崎県…149 校中、133 校で実施 (89.3%)

熊本県…199 校中、110 校で実施 (55.3%)

石川県…ほとんどの学校で取り組んでいるが、実数については把握していない

2分の1成人式で引用した藤上真弓「イベントだけで終わらせない「1/2成人式」の在り方について―特別活動と総合的な学習の時間双方のねらいを達成するために」(16)には、山口県の公立学校で立志式を実施している割合が掲載されており、66.9 パーセントとなっている。

浜松市ではすべての小学校で2分の1成人式が実施されていることを指摘したが、「立志式」も浜松市内のすべての中学校で実施されている。浜松市はキャリア教育充実のための施策の取組計画として以下の三点を挙げている。

(<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/somu/sesaku/sougoukeikaku/6-3.html>)

- ・指導課は、自己を振り返り将来を見据える活動を充実させるための指導を行う。
- ・学校は、2分の1成人式や立志式を行い、子どもが自己を振り返り、将来を見据える活動を行う。2分の1成人式を立志式に、立志式を成人式につなげる。
- ・学校は、教科の学習や行事等において、自分の学びや育ちを効果的に振り返り、将来を見据える活動を設ける。

問題は、キャリア教育や成人式が見据えられて、2分の1成人式と立志式が行われている点である。あくまで、「大人になる」ことから遡って10歳で2分の1成人式を実施し、14歳で立志式が行われているのである。地域社会の中で集団による認知が失われてしまったときに、教育機関としての小学校と中学校は、子どもに大人になることの自覚を促しているのである。

儀礼文化としての今後の展望

冒頭で述べたように、戦後の儀礼文化を鳥瞰したときに、儀礼の衰退もしくは簡素化は明らかである。しかしながら現状を調査してみると、初宮や七五三は戦後になって盛んになっている。クリスマスやバレンタイン、最近では節分の恵方巻は家庭行事として定着した。以上のように、戦後、核家族化、個人化が進む中で、伝統的な行事の変容が生じた。さらに、成人式の形骸化とは裏腹に、大人になることを促すような2分の1成人式や立志式が教育機関の中で定着していったことは十分留意に値する。

2分の1成人式と立志式はすでにある程度の時間、広がりを持って行われていたにもか

かわらず、研究者が把握していない行事だった。本論では扱えなかった「十三参り」もそうした行事の中のひとつである。

『年中行事大辞典』（吉川弘文館、2009年）によれば、「十三参り」とは以下のような行事である。

旧暦3月13日（現4月13日）に十三歳の男女児が、開運・智恵授けなどを願う虚空蔵尊に参ることで智恵貰いともいう。京都市右京区嵐山法輪寺の虚空蔵参りがよく知られているが、ほかに福島県河沼郡柳津町円蔵寺の柳津虚空蔵、茨城県那珂郡東海村日光寺の村松虚空蔵、岡山県美作市長福寺虚空蔵などでも行われる。法輪寺の十三参りは、近世の社寺案内などの記載から安永二年（1773）ころがはじまりとされる。また、折から嵐山の花見の季節で、十三参りで着飾った子供たちの華やかな衣装比べでも知られる。京都地方では、女兒はこの日にはじめて四つ身から本裁ちの着物に着替えた。岡山県美作北部の山村では、十三参りといい十三歳の男児が伯耆の大山参りをし成人儀礼とした。初禪や十三鉄漿など十三歳に成人儀礼をする民俗例は多く、十三参りはこれに虚空蔵に関係深い十三の数・智恵授け・開運祈願などが結び付いたものだろう。十三歳は、厄年でもある。

文面から明らかなように、十三参りは虚空蔵菩薩と関わりのある仏教民俗である。東京では浅草寺がよく知られている。ところが近年になって、「十三参り」と称して、神社でもご祈祷を行うようになっていく。引用文の最後にもあるように、十三歳は厄年であり、厄払いは神社でも行っている。それを「十三参り」として参拝者に訴えるようになっていくのである。

少し調べただけでも生田神社、熊野大社、塩竈神社など二十ほどの神社が「十三参り」とホームページで銘記していた。広島県神社庁のホームページでは「数えで十三才になった少年少女が、神社にお参りして、大人になるための知恵や福德を授かるための行事です。この時期は、子供から大人へと移り変わる大切な節目とされ、別名「知恵もらい」とも呼ばれています」と神社特有の行事であるかのように喧伝していた。宮司に直接話を聞いたことのある佐賀県護国神社では、初年度は数件だったが確実に増えているとのことだった。

十三参りについていえば、成人式の形骸化にともなって、大人としての自覚を促す儀礼は多くの家庭の関心事であり、儀礼として定着しつつあると考えられる。そうした場合には、特段伝統的な仏教民俗に依拠する必要はないのだろう。家族を基盤とした行事の在り方には、いまいちど検討する価値が十分にありそうである。家族には、新しい儀礼を受け入れる十分な素地があると考えられる。

附論

時期的に見て、発生時期は別にして、この10年間ほどの間で、急速に日本人の生活に定着していった行事が複数見られる。本論の冒頭で見たように、戦後の儀礼文化は基本的に、伝統宗教の衰退もしくは簡素化であった。新しく定着した行事はどれもキリスト教文化と関わる行事であった。しかしながら本論で扱ったような「2分の1成人式」や「立志式」はキリスト教文化ではない。年中行事に目を転じてみると、盛んになった行事として「ハロウィン」「恵方巻」を指摘することができる。ハロウィンはキリスト教文化に連なる儀

礼であるが、恵方巻は伝統的な行事のように見える。

通過儀礼と年中行事は相互に影響しながら我々の日常生活を形成している。近年浸透しつつある通過儀礼を理解するために、「ハロウィン」と「恵方巻」について要点だけ記述することにする。

ハロウィンの発生と浸透－ハロウィンは定着するか

＜ハロウィンの発生＞

報告者は1991年から3年間にわたって563人の大学生に年中行事に関する調査を行ったことがある(17)。このときのハロウィンの調査結果は以下のようであった。年代的には若年層の割合が高いと考えられるので、一般の実施率は一桁と考えていいと思う。それでも、実際に行っていないにもかかわらず「見たり聞いたりしたことはある」とする回答が6割近かった。

図表11 ハロウィンの実施度(石井調査)

| | | | |
|----------------|------------------|-------------------------|----------------|
| やっている 12.9% | かつてはやった 10.2% | 見たり聞いたりしたことはある 58.7% | 全く知らない 3.6% |
|----------------|------------------|-------------------------|----------------|

「ハロウィン」(10月31日)は諸聖人の祝日である万聖節の前夜のことで、死者の魂が家に帰ると信じられた。アメリカでは大きなかぼちゃをくり抜いたジャック・オー・ランタンという提灯を窓際に飾る。学校では仮装パーティーが開かれ、子供たちが魔女や怪物になってお菓子をねだり隣近所の家々を回る行事である。

「見たり聞いたりしたことはある」とする回答が6割近かったと指摘したが、1990年初頭にはすでに「ハロウィン」に関する商戦は始まっていた。10月になると、セブン・イレブンをはじめとしたコンビニエンスストアの店頭で、「ハロウィン」のかぼちゃを型どった、キャンディの入った容器が並べられていた。全国のセブン・イレブンの店頭で「ハロウィン」のかぼちゃ型お菓子が並ぶ背後には、市場調査、商品開発、供給体制、店頭での配架など、商品を守るためのあらゆる企業努力が存在していたにちがいない。

ブルボンや森永製菓など菓子メーカー33社からなる全国ビスケット協会が、クリスマスがケーキ、バレンタインディがチョコレートというように、ハロウィンにビスケットを普及させることを考えたことがある。ビスケット市場は、最大の顧客である児童数の減少、嗜好の多様化などによって売上が低迷していた。ビスケット協会は、ハロウィンの日を日本に輸入し、ビスケットの日として販売の拡大を図ったのである。協会は1990年のハロウィンからキャンペーンを行うこととし、SF Xの映画監督S. M. ジョージが製作したビスケット・モンスターをキャラクターに設定した。さらに、アメリカで初めてハロウィンパーティーを開いたとされるミネソタ州アノカ市からミス・アノカを招いてPRに努めた。新聞に掲載された協会担当社のコメントは「クリスマス並に大人も巻き込んでブームをつくりたい」(18)であった。

ハロウィンは業界の思惑にも関わらず、日本人のごく一部で行われているに過ぎなかった。ビスケット協会のキャンペーンは失敗し、現在ハロウィンのキャンペーンはいっさい行っていない。

1994年時点での私の判断は次のようなものだった。

ハロウィンはまだ日本人のごく一部で行われている行事に過ぎない。しかしながら業界による宣伝、テレビや雑誌によるアメリカ文化の普及により、近年低年齢層と若者の一部で受容されるようになってきている。低年齢層では仲の良い子供同士が仮装してお互いの家をお菓子をもらいに回る。若者の間では、ディスコなどで仮装パーティが行われる。しかしながら、ハロウィンが年中行事として日本人の間に定着するかどうかは不明である。(19)

ハロウィンの定着には、エンターテインメントの要素が強く働いたように思われる。主だったハロウィン・イベントを列記すると下記のようになる。個々の行事の成り立ちや内容については、それぞれのホームページを参照してほしい。

「原宿表参道ハローハロウィーンパンプキンパレード」はもっとも早く始まったハロウィンとされるが、実態はよくわかっていない。1990年代に醸成されていた関心が1990年代後半に商業化され、しだいに知名度と関心が高まり、2010年代になって沸騰した、というのが経緯ではないか。

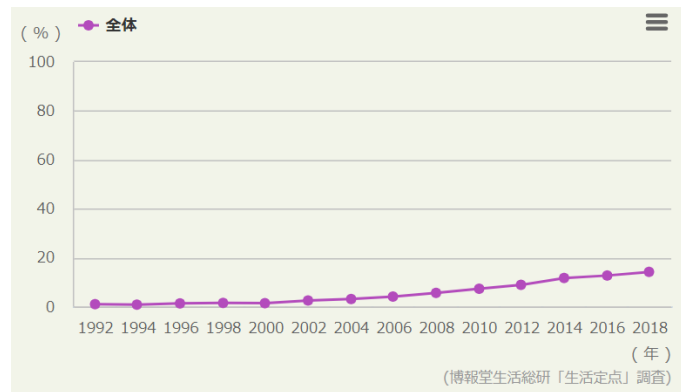
- 1983年** 原宿表参道ハローハロウィーンパンプキンパレード
- 1997年** ディズニー・ハロウィーン
- 1997年** 川崎ハロウィン
- 2002年** ユニバーサル・サプライズ・ハロウィーン
- 2010年** 神楽坂化け猫フェスティバル
- 2012年** 本牧かぼちゃまつり
- 2014年** 六本木ハロウィン
- 2014年** 中目黒ブルーハロウィン
- 2014年** 池袋ハロウィンコスプレフェス
- 2015年前後** 渋谷がハロウィンで賑わい始める

ハロウィンの実施率についてはさまざまな調査結果がある。もっとも定期的を実施しているのは博報堂生活総合研究所の「生活定点」調査である。調査対象地域が首都40km圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県）と阪神30km圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）に限定されている。対象人数は年ごとによって異なるが、おおよそ3千人余である。

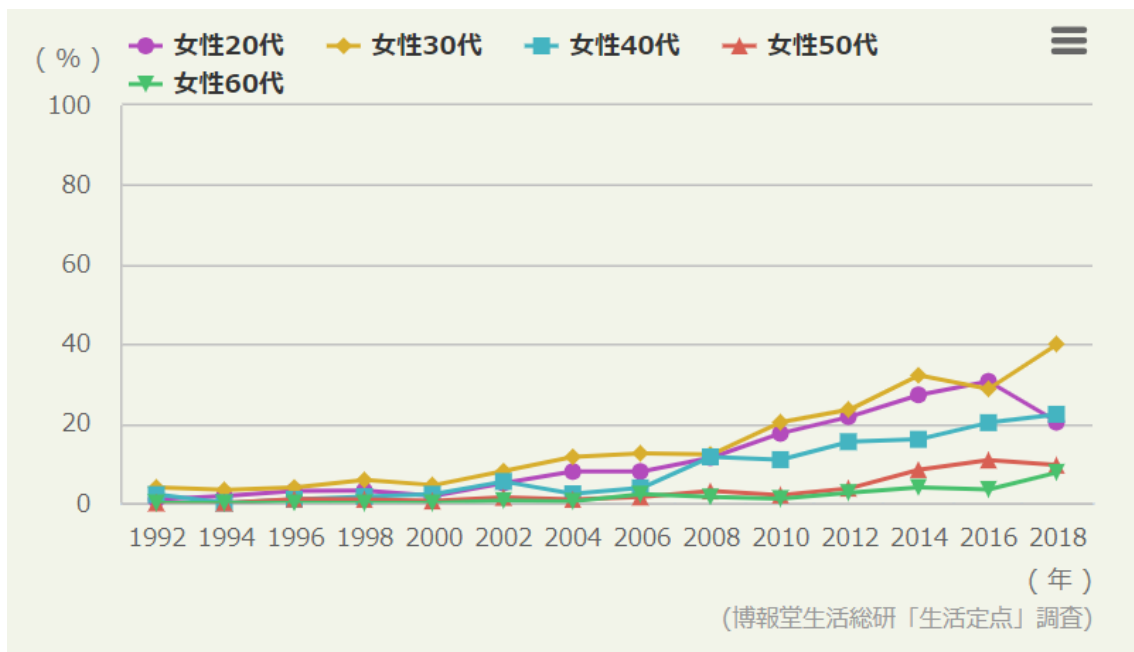
調査結果は図表12の通りである。1992年に1パーセントだった実施率は、2002年に2.3パーセントとなり、2018年には14.2パーセントとなっている。質問は「1年以内にした年中行事は何ですか？」というもので、かなり限定的であり、「数年内に」と質問すればさらに実施率は上がると考えられる。

世代別に見ると30代の実施率が高く、とくに女性で顕著である。

図表 12 ハロウィンの実施率（博報堂生活総合研究所）



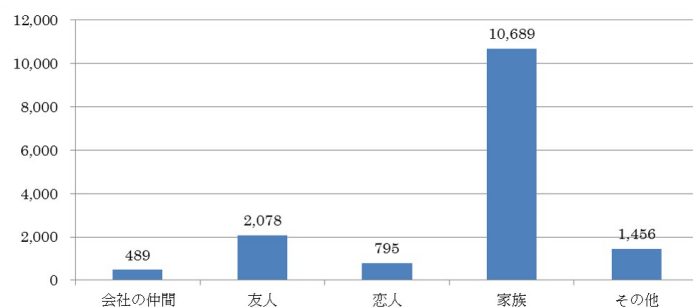
図表 13 ハロウィンの実施率：女性・年代別（博報堂生活総合研究所）



サッポロホールディングスは 2016 年からハロウィンに関するアンケート調査を行っている。この調査では (20)、「あなたは今年ハロウィンで何かを楽しみたいですか？」という実施とは質的に異なった質問になっているが、2016 年 (50%)、2017 年 (58%)、2018 年 (46%) と肯定する回答率が高い。関心自体はかなり高いと考えていいと思う。

興味深いのは、「ハロウィンはどこで過ごしたいと思いますか？」という質問の回答結果である。テレビを始めとした報道では、渋谷のハロウィンのように若者を中心としたイベントの印象が強いが、調査結果からは「家族で楽しむハロウィン」が浮かび上がる。(21) 図表 14 は人数で数値が示されているが、「家族」の回答数を割合に直すと 70.5 パーセントになる。他の調査でも同様の結果が示されており、ハロウィンは、自宅で家族で楽しむ行事として定着しつつある、とっていいと考える。

図表 14 ハロウィンに関するアンケート調査（サッポロホールディングス、2016年）



恵方巻

恵方巻の定着過程については、すでに複数の研究が存在していて、把握することが可能である。戦国武将説や井原西鶴や近松門左衛門の作品に出てくるという江戸時代初期説などさまざまである。「船場の色街で女性が階段の中段に立って、丸かじりして願い事をしたらかなったという故事にちなむ」という説（スーパーU社ちらし）もある。この記載は井原西鶴あるいは近松門左衛門の作品中に出てくるともいわれる。

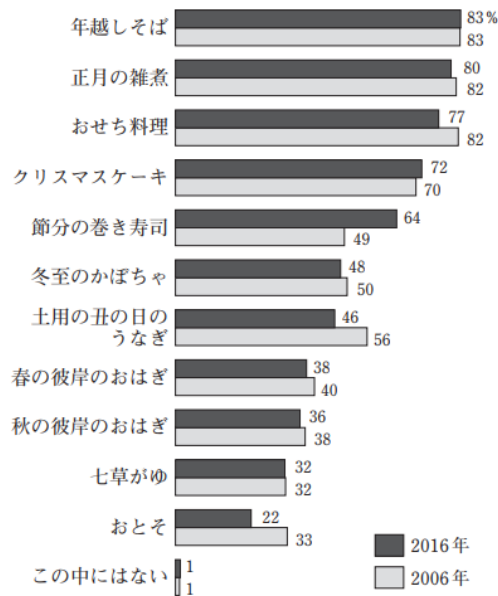
直接の起源として比較的好く見かけるのは、「幕末から明治時代初頭に、大阪・船場で商売繁盛、無病息災、家庭円満を願ったのが始まりで、一説には若い女性の好きな人と一緒になりたいという願望から広く普及した」というもので、海苔や酢の組合や協会を中心に報道されているものである。大正時代に始まったとされる説明も見られる。

現在、全国的に浸透した「恵方巻」はこうした伝統の延長線上にあるものではない。現在のようなブームとも言える状況を作り出したのは、「セブン・イレブン」である。1989年に広島市内の店舗個人オーナーが出身地の大阪の食べ物を「丸かぶり寿司 恵方巻」として商品化したという。（岩崎竹彦「節分の巻ずし」（『民俗』137・138 合併号、1990年）、岩崎竹彦「幸運巻ずしについて—都市の一現象」（原泰根『民俗のこころを探る』初芝文庫、1994年）、岩崎竹彦「フォークロリズムからみた節分の巻ずし」（『日本民俗学』236、2003年））。

現在の実施率は高い。調査方法や調査対象はこの際置いておいて、とりあえず実施率を見ておこう。

| | | |
|-------|-------|------------------|
| 2005年 | 34.9% | アサヒビールお客様生活文化研究所 |
| 2006年 | 42.4% | 北海道文教大学 |
| 2006年 | 54.9% | ミツカングループ |
| 2006年 | 49.0% | NHK 世論調査部 |
| 2007年 | 50.0% | 北海道文教大学 |
| 2016年 | 64.0% | NHK 世論調査部 |

図表 15 食生活に関する世論調査 (NHK)



全体として実施率が上がっているのは一目瞭然である。とくに同一機関による調査結果が高くなっていることから一般への普及は明らかである。現状では半数以上の家庭で実施されていると考えていいだろう。

「恵方巻」でも注目されるのは「家族」である。図表 16 は行事食を誰と食べたかが示されている。「彼岸のおはぎ」を除いて、すべての行事食で「一人暮らし」を「家族と同居」が上回っている。「節分の巻き寿司」も 43 パーセントと 67 パーセントと「家族と同居」の方が 1.5 倍も多い。さらに、「家族と同居している人で高校生以下の子の有」の場合、その実施割合は 76 パーセントへと上がっている (図表 17)。

明らかに「恵方巻」は家族を中心とした行事である。

図表 16 行事食を食べたか：家族形態別 (NHK 世論調査部)

| (%) | 家族と同居 (2,190 人) | | 一人暮らし (254 人) |
|------------|--------------------|---|------------------|
| 年越しそば | 84 | > | 73 |
| 正月の雑煮 | 82 | > | 68 |
| おせち料理 | 78 | > | 65 |
| クリスマスケーキ | 75 | > | 45 |
| 節分の巻き寿司 | 67 | > | 43 |
| 冬至のかぼちゃ | 50 | > | 34 |
| 土用の丑の日のうなぎ | 48 | > | 36 |
| 春の彼岸のおはぎ | 39 | - | 36 |
| 秋の彼岸のおはぎ | 37 | - | 34 |
| 七草がゆ | 33 | > | 24 |
| おとそ | 23 | > | 17 |

図表 17 行事食を食べたか：家族と同居している人で高校生以下の子の有無別
(NHK 世論調査部)

| (%) | いる (631人) | | いない (1,491人) |
|----------|--------------|---|-----------------|
| クリスマスケーキ | 91 | > | 69 |
| 節分の巻き寿司 | 76 | > | 63 |
| 年越しそば | 87 | > | 83 |

※表3・4の「<、>」は左右を比較して統計的に有意差があることを示す（信頼度95%）

注

1. 倉石あつ子・小松和彦・宮田登編『人生儀礼事典』小学館、2000年、9頁。
2. たとえば、福永峰子・三浦彩「行事および行事食に関する認知調査」（『鈴鹿短期大学紀要』31、2011年）や宇都宮 由佳他「和食」保護・継承に関する正月行事および食の実態把握」（『日本調理科学会大会研究発表要旨集』29(0)、2017年）など。
3. 『関西外国語大学人権教育思想研究所紀要』21、2018年。
4. 『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第40号、2015年。
5. 藤上真弓「イベントだけで終わらせない「1／2成人式」の在り方について—特別活動と総合的な学習の時間双方のねらいを達成するために」（『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第40号、2015年61頁。
6. 朝日新聞、2017年5月18日。
7. 「全国に広まる「2分の1成人式」 居合わせた記者ももらい泣き」 SAPIO2014年12月号（NEWS ポストセブン）、2014年11月22日。
8. 朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日経新聞に関して戦後の掲載紙をすべて検索し、該当する紙面はすべてチェックした。
9. 個々の生徒が10年後の自分に向けてメッセージを書き、記念品などと共に缶や箱に封入して校庭の一角に埋める。その後、同窓会などの際に掘り返して中身を見る。
10. NHK「生きもの地球紀行」の3代目エンディングテーマとして、1998年に発表された歌曲で、卒業式の歌として、小中学校の卒業シーズン等に歌われることがある。
11. 「考え直してほしい「2分の1成人式」——家族の多様化、被虐待児のケアに逆行する学校行事が大流行」2015年1月19日、「名前の由来」「昔の写真」必要か？ 2分の1成人式」2015年2月19日。
12. 内田良『教育という病 子どもと先生を苦しめる「教育リスク」』光文社、2015年、83頁。
13. 同、92頁。
14. 同、96～97頁。
15. 同、105頁。
16. 『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第40号、2015年。
17. 石井研士『都市の年中行事—変容する日本人の心性』（春秋社、1994年）に所収。
18. 産経新聞1991年10月29日。
19. 石井研士『都市の年中行事』春秋社、1994年。

20.調査対象はメールマガジン購読者で、対象数はおおよそ1万人を超えている。

21.渋谷のハロウィンに関しては、原稿を書いたことがある。<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/g00664/>

参考文献（通過儀礼、年中行事に関する一般的な文献は省き、直接関わるもののみ）

<2分の1成人式・立志式>

内田良『教育という病 子どもと先生を苦しめる「教育リスク」』光文社、2015年

落合幸子編著『小学四年生の心理—十歳 二分の一成人式』大日本図書、2000年

鎌田實『「二分の一成人式」で伝えたい いのちの話 未来を生きるきみたちへ』小学館、2014年

日野原重明『明日をつくる十歳のきみへ—一〇三歳のわたしから』富山房インターナショナル、2015年

井上林子『2分の1成人式』講談社、2015年

倉石あつ子・小松和彦・宮田登編『人生儀礼事典』小学館、平成12年

福永峰子・三浦彩「行事および行事食に関する認知調査」『鈴鹿短期大学紀要』31、2011年

宇都宮 由佳他「和食」保護・継承に関する正月行事および食の実態把握」『日本調理科学会大会研究発表要旨集』29(0)、2017年

『関西外国語大学人権教育思想研究所紀要』21、2018年

藤上真弓「イベントだけで終わらせない「1/2成人式」の在り方について—特別活動と総合的な学習の時間双方のねらいを達成するために」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第40号、2015年

石井研士『都市の年中行事—変容する日本人の心性』春秋社、1994年

井上忠司+サントリー不易流行研究所『現代家庭の年中行事』講談社、1993年

『コーラス&ピアノ・ピース 2分の1成人式~10才のありがとう~[オフィシャル版](楽譜)』（ケイ・エム・ピー、2013年

<ハロウィン>

大久保衣純「日本のハロウィーン受容」『國學院雑誌』第119巻第11号、2015年

石井研士『渋谷学』弘文堂、2017年

<恵方巻>

岩崎竹彦「節分の巻ずし」（相模民俗学会『民俗』第137・138号）1990年

岩崎竹彦「幸運巻ずしについて—都市の一現象—」（原泰根編『民俗のこころを探る』初芝文庫）1994年

岩崎竹彦「フォークロリズムからみた節分の巻ずし」（日本民俗学会『日本民俗学』236特集〈フォークロリズム〉）2003年

篠田統『すしの本』岩波現代文庫、2002年

飯倉義之「恵方を向いてまるかぶれ——二〇〇五年・関東地方の「節分の巻寿司行事」広告資料——」（都市民俗学研究会『都市民俗研究』第11号）

長沢利明「節分の恵方巻・丸かぶり寿司」（西郊民俗談話会『西郊民俗』第202号）2008年

沓沢博行「現代人における年中行事と見出される意味—恵方巻を事例として—」（比較民俗研究会『比較民俗研究』23）2009年

村田ひろ子・政木みき・萩原潤治「調査からみえる日本人の食卓—「食生活に関する世論調査」から①」『放送研究と調査』8月号、2016年

真部真里子・橋本慶子「年齢層による年中行事の認知と実施状況の相異」『日本家政学会誌』Vol.53, No.5、2002年

松本美鈴「現代家庭における年中行事と食べ物」『青山学院女子短期大学総合文化研究所年報』14、2006年

荒井三津子・清水千晶「食卓の縁起に関する研究Ⅰ—恵方巻の受容とその背景—」（北海道文教大学『研究紀要』第32号）2008年

福永峰子・三浦彩「行事および行事食に関する認知調査」『鈴鹿短期大学紀要』31、2011年